

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3102277号  
(U3102277)

(45) 発行日 平成16年7月2日(2004.7.2)

(24) 登録日 平成16年3月24日(2004.3.24)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

B 6 5 D 77/26

B 6 5 D 5/50

B 6 5 D 5/52

F I

B 6 5 D 77/26 Z

B 6 5 D 5/50 1 O 1 Z

B 6 5 D 5/52 1 O 1 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2003-273142 (U2003-273142)

(22) 出願日 平成15年12月16日(2003.12.16)

(73) 実用新案権者 302070017

高橋 克彦

東京都豊島区池袋2-61-8-802

(72) 考案者 高橋 克彦

東京都豊島区池袋2-61-8-802

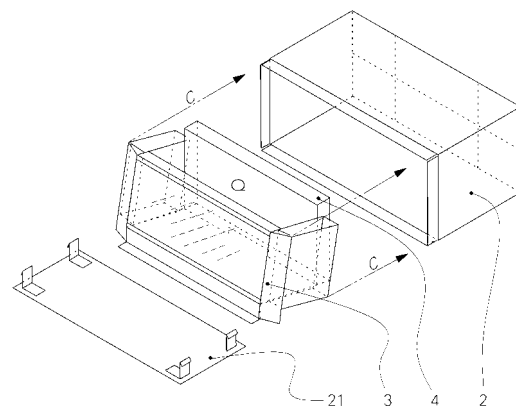
(54) 【考案の名称】 陳列可能な梱包を目的とする包装補助具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】できれば開梱することなくまたは蓋を外すだけの作業で店頭展示に陳列できるような梱包のできる緩衝包装具。

【解決手段】包装具枠3と包装具台4とからなる包装補助具で、可撓に富み透明な弾性プラスチックフィルムを包装具の方形窓に貼った物で被包装品を後部に索引するよう支持しながら被包装品の前面を提示できる姿勢を保持できるようにし、そのまま梱包容器2に収め、簡単に除去できる蓋も装着できる包装補助具。

【選択図】 図2



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

被包装品 1 の両側面を折りたたんで箱状の衝立を成す段ボール壁の外側枠 3 3 ・内側枠 3 5 に、同じく後側を背板 4 3 ・背前板 4 5 により包み、被包装品 1 の前側を方形窓 3 1 に上下辺のみを接着した透明で可撓性に富む弾性プラスチックフィルム 5 によって押さえ込み、窓下枠 3 8 とそれを補強する窓下枠接合部 4 1 で前部分を上に向けて立ち上げ背板 4 3 に繋がる底の台板 4 2 で、台板 4 2 と被包装品 1 の前部分が上向きになる傾斜姿勢をとるよう強制するように囲い込み、この姿勢を梱包容器 2 内で保持できるように包装補助具の下部では前裾枠 3 9 を梱包容器 2 の前横折返し 2 4 で挿み止め上部ではやや後部に向けて傾斜している方形窓 3 1 の上端に位置する上補強枠 3 7 の前縁となる窓上折り線 3 7 L を梱包容器 2 の天井外殻 b t で前側への移動を止めることを特徴とする包装補助具。

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本考案は、できれば開梱することなくまたは蓋を外すだけの作業で店頭展示に陳列できる梱包のための緩衝包装補助具に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

音響機器・ビジュアル機器や情報機器など比較的比重の大きい中型個装商品ものを可能なら開梱することなく店頭展示にも使えるようにとの販売店の要望に応えるための緩衝包装を本考案は目指しており、特許電子図書館の特許実用検索の公報テキスト検索で、発明の名称に「包装」要約に「展示」をキーワードとして公開特許公報を検索したところ 1 2 9 件がリストアップされた。前記の機器梱包に適用できそうなものは次の 4 件であった。

## 【0003】

【特許文献 1】特表平 1 1 - 5 1 2 6 8 8 公報 これは一言で表現すると引き出し式段ボール箱であって、本考案の目的に転用すると展示面積が商品単体の設置面積の 3 倍以上を必要とし、店頭展示には向かない。

## 【0004】

【特許文献 2】特開 2 0 0 1 - 1 7 1 6 5 4 公報 これは前後に両開きする箱の全部を前に倒し、内部の包装品を取り出し、傾斜配置展示できるものの、平形の情報計算機機やファクシミリなどに向いているように感じるも、可能なら商品を取り出さなくとも提示できるようになれば実用的だと思われる。

## 【0005】

【特許文献 3】特開 2 0 0 2 - 2 6 8 4 公報 これは梱包容器の上部と前面を含む胴部外壁を切除して展示するため、包装された商品も前面と上面を提示でき、上面に C D た D V D などの装入用蓋を有する A V 機器には最適であるが、持ち帰り時に切除した外壁をいかに復旧するかの方策が示されていないのでこのまま転用できない。

## 【0006】

【特許文献 4】特開 2 0 0 3 - 1 3 7 2 7 3 公報 これは当考案と同目的であるものの、巻き込み状外被を開くため、店頭設置時には梱包時自体の前後に同面積を要し、店頭設置時に嫌われる可能性が大きいし、積み重ね店頭設置にも使えない。

## 【0007】

他の検索された文献は食品とか小物生活用品向きであって、持ったとき重い手応えを感じる個装商品には向かないものが多かった。

## 【考案の開示】

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0008】

本考案の課題「比較的比重の大きい中型個装商品ものを開梱することなく店頭展示にも使えるようにとの販売店の要望に応えるための緩衝包装」は次の 8 項の条件を同時に充足することで解決すると判断できる。

## 【0009】

- 1) 比重の高い個装商品を緩衝包装できること。
- 2) 蓋を外すだけで被包装物が見えるか、できるなら梱包したままで荷姿を確認できることが望ましい。
- 3) 被包装商品の機能を多く提示できる面が見える開封面または蓋設置面に向けた姿勢で包装できること。
- 4) 店頭展示時の設置面積が梱包時より広がらないこと。
- 5) 店頭展示のための開梱操作や準備が複雑でないこと。
- 6) 店頭展示のさい積み重ね可能なこと。
- 7) 店頭展示のさい廃棄物が皆無ないし極少であること。
- 8) 商品購入客が持ち帰る際、開梱展示してあるものを開梱前の状態へ手早く容易に復帰できること。

10

## 【課題を解決するための手段】

## 【0010】

上の諸条件を解決できたとすれば、図1：梱包外観図のようになるものと思われる。この図は（A）梱包時の外観図は、蓋を外したときに、（B）店頭展示時の外観図に示した状態になる事を示している。これは上記の2）項の前半を図1全体で例示したものである。

## 【0011】

図1は蓋の有無による2梱包状態を例示した図である。これは上記の2）項の後半である「梱包したままで荷姿を確認できる」ことを図1の（B）店頭展示時の外観図の蓋を除いた範囲のものが例示している。これに付いては、後述【0000】段の記述で触れる。

20

## 【0012】

この図1の内部構成を、被包装品1を除いて示したのが図2：梱包構成図であって、本考案の意図はこの構成、即ち、包装具枠3と包装具台4が一つとなって形成する立方体の空白部分Q内に被包装品1を装入したまま、仮想線矢印Cすなわち包装具枠と包装具台の梱包容器への挿入方向である梱包容器2内に挿入することを示している。

## 【0013】

図2の一番手前に梱包容器2の蓋21が図示されているが、【0035】段に後述するようにこれは有っても良いが無くとも済む部品なので、とりあえず蓋21を併用するときのものとして図示して置いた。

30

## 【考案の効果】

## 【0014】

図2で示した構成は【0009】段に挙げた8条件をすべて充足できる解決例である。この詳細は下段の記述内で個々に説明する。

## 【考案を実施するための最良の形態】

## 【0015】

本考案では、被包装物1を包容できる空間に近い立方体の空白部分Qを包装具枠3と包装具台4とでなる包装補助具で構成し、その全体を梱包容器2に納めるという常識的に見える。この考案の特徴は包装具枠3にあり、梱包容器2と包装具台4は通常のものである。本考案をなす構成について、梱包容器2・包装具枠3・包装具台4の順で説明し、この組み合わせが生むメリットを以下に説明する。

40

## 【実施例1】

## 【0016】

梱包容器2を図3：梱包容器例の説明図で見るが、見出しに梱包容器例と有るように一事例であって、重要なことは横前面が蓋をできる容器であれば良いので、これによって、【0009】段に挙げた2）3）4）5）6）7）8）の7項目の充足にかなりの程度は役立つからである。

## 【0017】

図3の上段に梱包容器2の主体を成す容器殻20板段ボール材の展開図を示し、下段左

50

に蓋 2 1 の板段ボール材の展開図を配し、その二つの組み立て状態の斜視図を下段右側に示す。

【0018】

図 3 上段の段ボール材の展開図に示すように、容器殻 2 0 は 4 本の殻折り線 2 7 を有し右端の殻閉じ耳 2 6 を長手方向反対端部に接合させて四角な外殻を形成し、外殻幅方向前部には前折返し線 2 8 を介して前縦折返し 2 2 と前横折返し 2 4 を角 2 辺ずつ持ち、反対側に後折返し線 2 9 を経て後縦盲板 2 3 と後横盲板 2 5 を二辺ずつ配し、組み立てると斜視図に示した容器殻 2 0 を成す。

【0019】

Π またはコの字切り抜き 2 1 2 を方形の四隅に配した蓋 2 1 は、コの字切り抜き 2 1 2 を折り曲げ起こした立折り 2 1 3 部部の先端をさらに折り曲げて引掛 2 1 4 と成す。これにより蓋 2 1 を梱包容器 2 の開口部に押しつけるとき、図 6：梱包断面図の上・下に示した平面視・右側面視図の各左端に離して配置した蓋 2 1 の右側の引掛 2 1 4 が梱包容器 2 の前面に当たる左側の前縦折返し 2 2 に系合できる事が理解できよう。これが [0009] 段に挙げた 8) 商品購入客が持ち帰る際、開梱展示してあるものを開梱前の状態へ手早く容易に復帰できることの説明となる。

【0020】

また、この蓋 2 1 を外すのには、コの字切り抜き 2 1 2 を折り曲げ起こしたあとの角穴 4 ケのうち任意の 2 ケに指をかけて引くだけで済むので、[0009] 段に挙げた 5) 店頭展示のための開梱操作や準備が複雑でないことが達成できる。

【0021】

図 4：包装具枠の説明図は、左側に段ボール材の展開図を示し、右側には組み立てた状態を斜視図で示した。なお、この図でも他の図でも折り曲げ線は 2 種類の破線で表現している。長破線は図面の裏側に折り曲げる事を示し、破線は図面の表側に折り曲げることを意味している。

【0022】

包装具枠 3 を形成する段ボール板材の長手方向の中心に、長手方向に横幅 W 3 寸法この直角方向に縦幅 H 3 サイズの方形窓 3 1 を設け、両側の長手方向サイドに中心から端に向けて窓枠 3 2 ・外側枠折り線 3 2 L ・外側枠 3 3 ・後側枠折り線 3 3 L ・後側枠 3 4 ・内側枠折り線 3 4 L ・内側枠 3 5 ・前側枠折り線 3 5 L ・前側枠 3 6 部分とする。そして中心の方形窓 3 1 の上に窓上折り線 3 7 L ・上補強枠 3 7 を配し、方形窓 3 1 の下部に窓下折り線 3 8 L ・窓下枠 3 8 ・前裾折り線 3 9 L ・前裾枠 3 9 と設けているが窓下枠 3 8 の両側に窓下切り込み 3 8 S が設定されている。

【0023】

また、この方形窓 3 1 より一回り大きくこの窓穴をカバーできる細線で示された透明な長方形の弾性プラスチックフィルム 5 が方形窓 3 1 を覆いその上下端の 2 方向のみを図 4 の左側の図に縦長ハッチングで示した弾性プラスチックフィルムの包装具との接合部分 5 1 で接合し、方形窓 3 1 の左右両側は接合していない。この点が、在来の弾性プラスチックフィルムによる宙づり緩衝方式と異なる特徴である。

【0024】

これを方形窓 3 1 に近い折り線から順に、外側枠折り線 3 2 L ・後側枠折り線 3 3 L ・内側枠折り線 3 4 L ・前側枠折り線 3 5 L ・窓上折り線 3 7 L と内側すなわち図面の表側に折り込み、最後に前裾折り線 3 9 L を図面の裏側に折り前裾枠 3 9 を突き出させると、図 4 の右側に示した、包装具枠 3 を梱包状態時の裏側から見た斜視図のようになる。

【0025】

これで包装具枠 3 が形成できる二つの外側枠 3 と窓枠 3 2 に貼られた弾性プラスチックフィルム 5 からなるスペースのサイズは、「空白部分の幅 W 3 × 空白部分の高さ H 3 × 空白部分の奥行き D 3」と表現できる。これが [0029] 段で後述する立方体の空白部分 Q に相当する。この包装具枠 3 を梱包状態時の裏側から見た斜視図の右側に窓下枠 3 8 裏面に示しているクロスハッチング部分 3 B と矢印 B については次段で記述する。

10

20

30

40

50

## 【0026】

以上で形成される包装具枠3は、このままでは機能しない。図5：包装具台の説明図の下段に示した斜視図に図示した窓下枠接合部41の梱包時の表側である包装具枠の3B部分との接合面4Bを、この包装具枠3を梱包状態時の裏側から見た斜視図の右側に窓下枠38裏面に示しているクロスハッチング部分3Bに糊付けやステプラーなどで接合して始めて、図2の包装具枠3+包装具台4からなる包装補助具として機能できる。

## 【0027】

このための包装具台4について図5：包装具台の説明図の上段の段ボール板材展開図で説明する。この展開図左端の窓下枠接合部41から右側に向かって、台板折り線41L・二つの差し込み穴48を持つ台板42・背板折り線42L・背板43・肩枠折り線43L・肩枠44・背前板折り線44L・背前板45・差し込み47と続き、二つの差し込み47は中間にケーブル通し凹切り欠き46を挿んでいる。 10

## 【0028】

これを折り線ごとに図面手前側に折り込み、台板42の差し込み穴48に差し込み47を挿入してなる形状が、下段の斜視図であり、これは梱包状態では裏側から眺めた斜視図となり、図4：包装具枠の説明図左側の梱包状態時の裏側から見た包装具枠3の斜視図と同じ方向に図示してある。図4の斜視図3B面に図5の4B面を矢印B方向に接着または接合させて、包装具枠3と包装具台4が一体になって包装補助具となる。

## 【0029】

包装具枠3と包装具台4を一体にしたのは、図3：梱包容器例の説明図の中央に表示した包装補助具中央に立方体の空白部分Qを作成するためである。この立方体の空白部分Qのサイズについて「0025」段で触れているが、この空白部分の機能については図6：梱包断面図の方が理解しやすい。図6は、図1（B）の梱包外観図における天井外殻btを外した平面視を上段の左に蓋21、右に梱包された梱包容器2を示した。下段には梱包外観図における右側外殻bsを外して見た側面視を左に蓋21、右に梱包された梱包容器2と並べた。 20

## 【0030】

この図6で、被包装品幅Wは図4における空白部分の幅W3に等しくこれはそのまま包装具枠3の方形窓31の窓横幅であり、方形窓31の窓縦高さH3は被包装品高さHより大きく、空白部分Qの奥行きD3が被包装品奥行きDとほぼ等しいかより小さいかと観ることができる。そして、この包装補助具に依る梱包は被包装品1の両側面を折りたたんで箱状の衝立を成す段ボールの壁となる外側枠33・内側枠35に、同じく後側を背板43・背前板45により包み、残る前側を方形窓31に貼った弾性プラスチックフィルム5によって押さえ込む形で行っている。 30

## 【0031】

この囲い込みは、窓下枠38とそれを補強する窓下枠接合部41で前部分を上に向けて立ち上げ背板43に繋がる底の台板42のため、台板42と被包装品1の前部分が上向きになる傾斜姿勢をとるよう強制している。この姿勢のさい被包装品奥行きDが外側枠33のなす奥行き代D3が傾斜により縮小するため、図6下部に示すように方形窓31よりサイズdだけ突き出すことになる。これはサイズdだけ突き出すための弾性プラスチックフィルム5の変形弾力によって被包装品1を後部に押さえ込んでいる事になる。 40

## 【0032】

この姿勢を梱包容器2内で保持できるよう、被包装品1を包み込む包装補助具の下部では前裾枠39を梱包容器2の前横折返し24で挿み止め、上部ではやや後部に向けて傾斜している方形窓31の上端に位置する上補強枠37の前縁となる窓上折り線37Lを梱包容器2の天井外殻btで前側への移動を止めている。この梱包容器2内における被包装品1の姿勢保持が弾性プラスチックフィルム5の弾性による緩衝包装を実現し、「0009」段に挙げた1）比重の高い個装商品を緩衝包装できることを達成している。また、この姿勢保持は「0009」段に挙げた2）蓋を外すだけで被包装物が見えるか、できるなら梱包したままで荷姿を確認できることが望ましいと、3）被包装商品の機能を多く提示で 50

きる面を見える開封面または蓋設置面に向けた姿勢で包装できることも理解できよう。

#### 【0033】

なお、この緩衝包装を為すための条件をここで確認すると下記4項となる。

(1) 被包装品1の幅 $W$ ＝方形窓31の横幅 $W_3$ ＝包装具台4の横幅＜梱包容器2の内法幅 $W_2$

(2) 被包装品1の高さ $H$ ＜方形窓31の縦幅 $H_3$ ＜梱包容器2の内法高さ $H_2$

(3) 被包装品1の奥行き $D$ ＝＜内側枠35サイズ $D_3$ ＜梱包容器2の内法奥行き $D_2$ 。

(4) 被包装品1の方形窓からの突き出し代 $d$ ＝被包装品1の奥行き $D \times (0.1 \pm 0.6)$ 、これは弾性プラスチックフィルム5の膜厚・有効膜幅 $H_3$ ・弾力と被包装品1の前面単位面積当たり重量と許容衝撃上限設定により変わる。

10

#### 【0034】

以上に述べたように構成した本考案では、[0009]にあげた4)店頭展示時の設置面積が梱包時より広がらないことと、6)店頭展示のさい積み重ね可能なことも当然となり、7)店頭展示のさい廃棄物が皆無ないし極少であることについては説明を要しないと思われる。

#### 【0035】

前述[0013]段で「包容器2の蓋21は有っても良いが無くとも済む部品」と記述したが、この蓋は運送中の異物の突き当たりによる被包装品1の破壊を防止するのが主目的であり、現在のように運送品質が高い社会環境では必至であるとは言えない。たとえば、この蓋21を併用しないとき、図1(B)の上段の姿、すなわち、図6の右側に示した梱包姿勢のまま、この梱包の側面全周を透明なストレッチフィルムで巻いておくだけでも十分で有ると思惟できる。これにより、開梱作業無しに店頭陳列に使用でき、さらに、購入客が手持ちで持ち帰れるような取っ手を梱包容器2の天井外殻 $b_t$ に装着しておくことにより移動広告になりうる可能性もできよう。

20

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0036】

できれば開梱することなくまたは蓋を外すだけの作業で店頭展示に陳列できるようにとの販売店の要望に応えるための緩衝包装として十分機能する。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【0037】

30

【図1】 梱包外観図 (A) 梱包時の外観図 (B) 店頭展示時の外観図

【図2】 梱包構成図

【図3】 梱包容器例の説明図

【図4】 包装具枠の説明図

【図5】 包装具台の説明図

【図6】 梱包断面図

#### 【符号の説明】

#### 【0038】

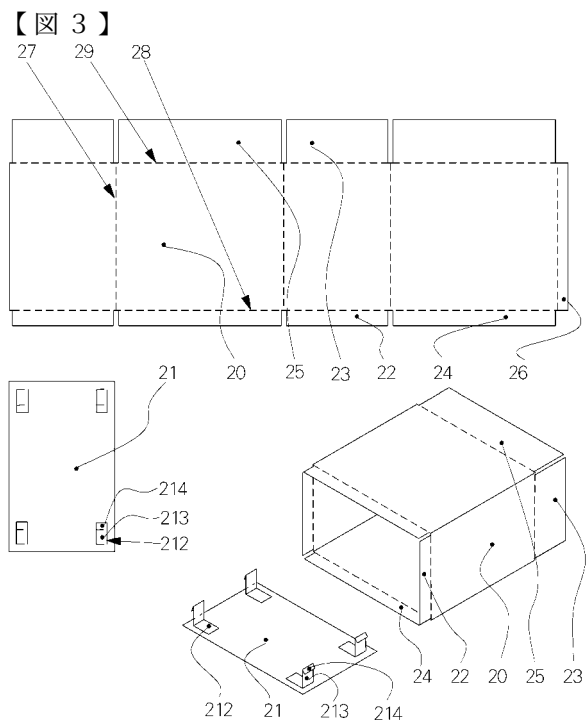
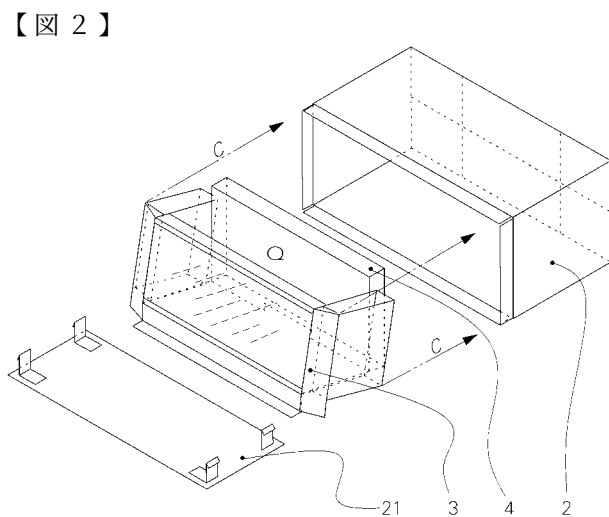
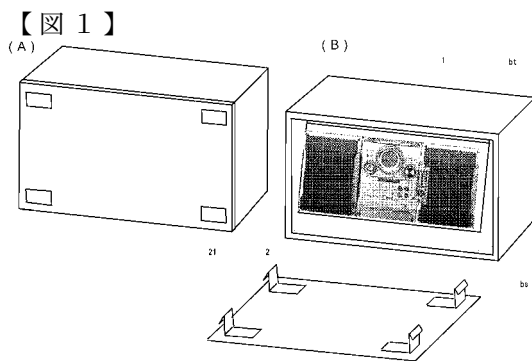
- 1 被包装品
- 2 梱包容器
- 20 容器殻
- 21 容器蓋
- 212 コの字切り抜き
- 213 立折り
- 214 引掛
- 22 前縦折返し
- 23 後縦盲板
- 24 前横折返し
- 25 後横盲板
- 26 殻閉じ耳

40

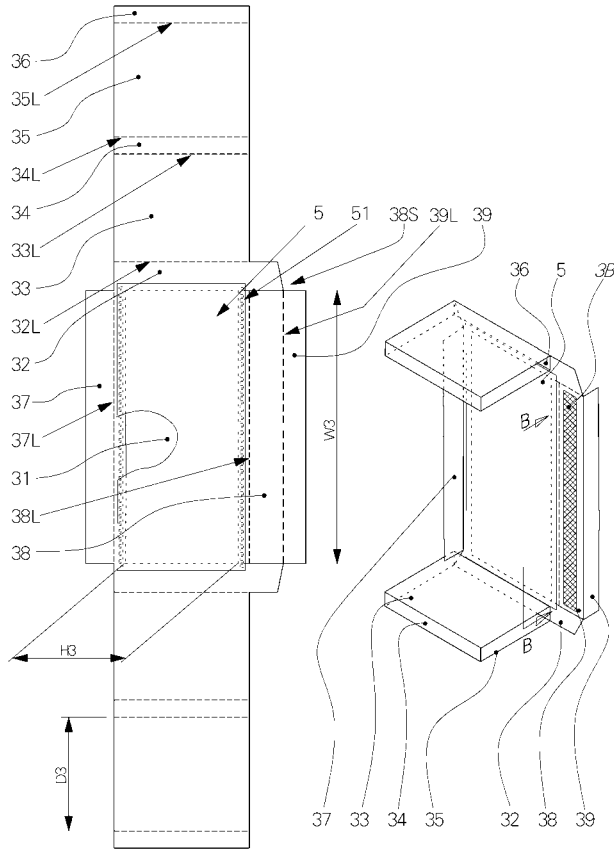
50

|       |                        |    |
|-------|------------------------|----|
| 2 7   | 殻折り線                   |    |
| 2 8   | 前折返し線                  |    |
| 2 9   | 後折返し線                  |    |
| 3     | 包装具枠                   |    |
| 3 1   | 方形窓                    |    |
| 3 2   | 窓枠                     |    |
| 3 2 L | 外側枠折り線                 |    |
| 3 3   | 外側枠                    |    |
| 3 3 L | 後側枠折り線                 |    |
| 3 4   | 後側枠                    | 10 |
| 3 4 L | 内側枠折り線                 |    |
| 3 5   | 内側枠                    |    |
| 3 5 L | 前側枠折り線                 |    |
| 3 6   | 前側枠                    |    |
| 3 7   | 上補強枠                   |    |
| 3 7 L | 窓上折り線                  |    |
| 3 8   | 窓下枠                    |    |
| 3 8 L | 窓下折り線                  |    |
| 3 8 S | 窓下切り込み                 |    |
| 3 9   | 前裾枠                    | 20 |
| 3 9 L | 前裾折り線                  |    |
| 3 B   | 包装具台の 4 B 部分との接合面      |    |
| 4     | 包装具台                   |    |
| 4 1   | 窓下枠接合部                 |    |
| 4 1 L | 台板折り線                  |    |
| 4 2   | 台板                     |    |
| 4 2 L | 背板折り線                  |    |
| 4 3   | 背板                     |    |
| 4 3 L | 肩枠折り線                  |    |
| 4 4   | 肩枠                     | 30 |
| 4 4 L | 背前板折り線                 |    |
| 4 5   | 背前板                    |    |
| 4 6   | ケーブル通し凹切り欠き            |    |
| 4 7   | 差し込み                   |    |
| 4 8   | 差し込み穴                  |    |
| 4 B   | 包装具枠の 3 B 部分との接合面      |    |
| 5     | 弾性プラスチックフィルム           |    |
| 5 1   | 弾性プラスチックフィルムの包装具との接合部分 |    |
| b s   | 梱包外観図における右側外殻          |    |
| b t   | 梱包外観図における天井外殻          | 40 |
| B     | 包装具枠と包装具台との接合方向        |    |
| C     | 包装具枠と包装具台の梱包容器への挿入方向   |    |
| d     | 被包装品の方形窓からの突き出し代       |    |
| D     | 被包装品奥行き                |    |
| D 2   | 梱包容器の内法奥行き             |    |
| D 3   | 空白部分の奥行き               |    |
| H     | 被包装品高さ                 |    |
| H 2   | 梱包容器の内法高さ              |    |
| H 3   | 空白部分の高さ                |    |
| Q     | 立方体の空白部分               | 50 |

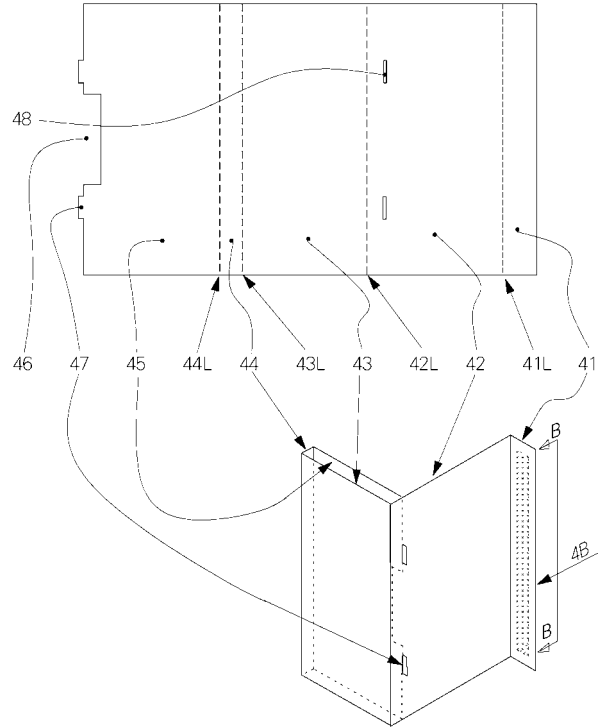
W 被包装品幅  
W 2 梱包容器の内法幅  
W 3 空白部分の幅



【図 4】



【図 5】



【図 6】

